

## 球磨医療圏の外来医療機能についての協議結果

## 1 夜間・休日の初期救急について

## (1) 現状と課題

項目	データ
① 年間の救急患者数	夜間 13,336 人 / 休日 8,884 人
② 在宅当番医の参加医療機関数	人吉市 39、球磨郡 24 医療機関、小児科 6 医療機関
③ 救急告示病院（二次救急病院）	4 医療機関（人吉医療センター、公立多良木病院、外山胃腸病院、球磨病院）

※①夜間患者数は平成 30 年病床機能報告より、休日は人吉市及び球磨郡医師会よりの報告

- ・ 休日在宅当番医は、69 医療機関が参加し、休日 1 日あたり人吉市で 2、球磨郡で 2、郡市合わせ小児科 1 の合計 5 医療機関で原則対応（病院含む）
- ・ 夜間に関しては、一部の病院・診療所のみ実施しており、大部分は二次救急病院に依存している。また、圏域内の医師の高齢化及び勤務医の働き方改革により、休日在宅当番医・夜間救急外来の維持が年々困難になることが予想される。
- ・ 将来的に夜間の診療体制の整備が課題となるが、医師の高齢化、働き方改革に加え、夜間時の調剤薬局や看護師・技師などスタッフの人員確保を含めた総合的な環境整備が必要となる。一方で、前項のような休日在宅当番制の課題がある中、夜間まで増やすのは現実的に困難。
- ・ 球磨圏域外から通勤する勤務医が多く、また人吉市以外の診療所の医師も人吉市在住が多いため、夜間時の医師偏在が顕著化
- ・ 救急車の利用が多い。高齢化や独居老人等の増加が一因とみられる。また救急搬送の半数近くが軽症となっており、適正利用が求められる。

## (2) 目指すべき方向性

- ・ 救急へのかかり方及び救急車の適正利用について、行政・医療機関が協力して住民に対して啓発していく必要がある。また、初期救急にかかる前に訪問看護が対応するなど在宅医療を充実化させるとともに、住民や介護保険施設に対する ACP への理解・普及を進めていく必要がある。

※ACP：アドバンス・ケア・プランニング。今後の治療・療養について患者・家族と医療従事者があらかじめ話し合う自発的なプロセス

- ・ 将来的には、働き方改革や医師の高齢化に対処するため、勤務医を始め若手医師の確保に努めるとともに、休日在宅当番医体制の再構築や、救急病院の輪番制などを検討していく必要がある。また、今後新規開業を行う医師等に郡市医師会による休日在宅当番医へ協力要請を行う。

## 2 公衆衛生分野について

### (1) 現状と課題

項目	データ
① 学校医	48人(43校)
② 予防接種を実施する医療機関	65医療機関
③ 産業医	43人(78事業所)

※学校医は圏域内の小中高及び支援学校の学校医を集計

#### ① 学校医

- ・学校規模や設置診療科の数で変動するが、1つの学校に対して学校医は1～4名おり、診療科は内科のみ、もしくは内科・耳鼻科・眼科で構成されている。医師1人当たり平均2.2校を受け持つ(最多11校)。耳鼻科・眼科の医師は負担感が大きい。
- ・学校医を務める医師は開業医が多いため健康診断等の行事に際しては、自身の診療所の代替医師の確保や休診措置の必要がある中、行事の多い学校側と日程調整などを実施しなければならず、対応に苦慮する場合がある。
- ・学校医に対して求められる内容も、これまでの三診療科以外にも近年はアレルギー疾患、運動器健診、生徒の心のケアなど多岐にわたる。
- ・学校医は、教職員の健康管理も担当しているケースが多く、教職員のメンタルヘルスへのかかわりも求められるようになってきた。一方で学校医に対しても産業医の資格が求められるようになると、学校医不足につながる可能性がある。

#### ② 予防接種

- ・予防接種に関しては、A類疾病については、市町村によって医療機関への委託で実施、もしくは集団接種を実施している。A類疾病、B類疾病併せて65医療機関で予防接種を実施している。

#### ③ 産業医

- ・産業医1人あたり平均1.5事業所155人を担当している。
- ・産業医については、今後一層ストレスチェックや働き方改革に伴う長時間勤務者への対応等により、重要性が増加する。一方で約半数が60歳以上と、高齢化対策が必要となる。

### (2) 目指すべき方向性

#### ① 学校医

- ・耳鼻科・眼科の医師に関しては、圏域の医師数が少なく、多数の学校及び遠方の学校まで受け持つ状況のため、今後も、地域の実情を踏まえ、市町村、学校、医師会等が連携し、互いに協力するとともに、新規開業を行う医師にも協力を要請する。また、学校医に求められる内容も多岐にわたるため、これまでの内科・耳鼻科・眼科のみならず、整形外科・精神科などの医師とも連携できる体制を検討していく。

## ② 予防接種を実施する医療機関

- ・当医療圏では、65医療機関が予防接種を実施しており、地域の予防接種体制は確保できている。今後も市町村や医師会等で実施医療機関の連携・充実を図るとともに、新規開業を行う医師に協力要請を行う。

## ③ 産業医

- ・現状では、産業医について43人の医師が対応しており、一定数の医師は確保できているが、高齢化及び医師の負担が大きいため、新規開業を行う医師に協力を要請する。また、産業医の資格を有していない医師に対し協力要請を行う。

3 在宅医療について

## (1) 現状と課題

項目	データ
① 在宅医療支援病院	6 医療機関
② 在宅医療支援診療所	8 医療機関
③ 在宅医療後方支援病院	1 医療機関
④ 訪問看護ステーション	16 施設
⑤ 在宅医療サポートセンターの設置状況	2 機関

※令和元年（2019年）10月1日現在

- ・圏域に在宅医療サポートセンターを2か所（人吉医療センター・公立多良木病院）を設置し、必要な医療の提供体制づくり、マッチング、医療機関の連携促進、関係専門職の人材育成を実施するとともに、くまもとメディカルネットワークの普及について、関係機関と連携し進めている。
- ・小規模な訪問看護ステーションが多く、24時間対応、緊急時対応のために、補完しあえる仕組みづくりが必要。介護職や看護職の人材不足解消への取り組みも必要。

## (2) 目指すべき方向性

- ・現状では、在宅医療について上記のとおり対応しているものの、今後在宅医療の需要が一層高まることが予想される。これまで在宅医療サポートセンターの設置など体制整備を進めており、今後、新規開業を行う医師及び既に開業している医師にも引き続き協力要請を行い、在宅医療の提供体制の充実を目指す。
- ・初期救急とも関連するが、在宅医療を進めるためにも住民及び介護保険施設のスタッフ・入所者に対する ACP、退院支援、看取り等への理解・啓発を進めていく。

#### 4 医療機器の状況

##### (1) 主な医療機器の配置状況

機器名	保有台数	機器名	保有台数
CT	12台	マンモグラフィ	<u>4台</u>
MRI	5台	リニアック	<u>1台</u>
PET	<u>1台</u>		

※CT、MRI、PETは平成30年病床機能報告より

マンモグラフィ、リニアックはくまもと医療ナビより（一部保健所にて修正）

##### (2) 目指すべき方向性

- ・現状においても、人吉医療センター（地域医療支援病院）や公立多良木病院を中心に医療機器の共同利用を図っている。また、医療機器の配置状況についても正確な情報の収集・提供（見える化）を進め、引き続き、地域における共同利用を進めるとともに、(1)にあるような高額な医療機器については、購入、更新等の場合には、地域医療構想調整会議で協議を行うこととする。